

文部科学省・外務省後援

第2回 PDA 高校生パラメンタリーディベート

世界交流大会 報告書

一般社団法人 パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

日程：

2017年1月20日（金）、21日（土）、22日（日）

会場：

ホテル日航関西空港 関西空港会議場
 〒549-0001 大阪府泉佐野市泉州空港北1番地
 TEL: (81) 72-455-1111

主催：	一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)
助成：	一般社団法人東京倶楽部、子どもゆめ基金、 株式会社ヒューマンブレーン
後援：	文部科学省、外務省、朝日新聞社、朝日中高生新聞、 一般社団法人日本英語交流連盟、大阪府立大学
国内選抜助成：	公益財団法人日本財団



参加校とディベートチーム：16 チーム（日本 6 チーム、海外 10 チーム）

- 日本 長野県松本県ヶ丘高等学校
- 日本 さいたま市立浦和高等学校
- 日本 浅野高等学校
- 日本 京都市立紫野高等学校
- 日本 大阪教育大学附属高等学校平野校舎
- 日本 熊本県立済々黌高等学校

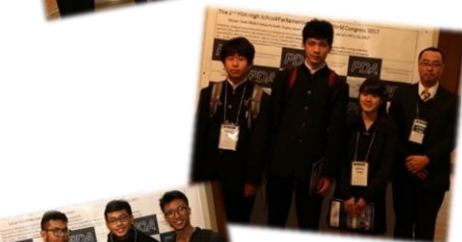
- イタリア WeDebate Network (2 チーム)
- インドネシア Sman 8 Yogyakarta
- 韓国 Busanjangsan High School (2 チーム)
- タイ王国 Anglo Singapore International School
- ニュージーランド Southland Boys' High School (2 チーム)
- フィンランド Finland Team
- モロッコ Moroccan National Debate Team

※1日目のみの参加生徒

- 愛知県立旭丘高等学校
- 栄光学園高等学校
- 栃木県立佐野高等学校
- ノートルダム清心学園清心女子高等学校

National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

体験の風を
おこそう



大会趣旨

昨今、グローバル化の加速により、多様な文化や考え方を理解し、グローバル社会で貢献できる人財の育成が求められています。本大会では、パラメンタリーディベートを通して、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識・考え方、コミュニケーション力など複数の力を発揮し、様々な国の人と同じ土俵で議論し、成長する機会を提供します。キーノートスピーチなど最新の講演も織り交ぜ、グローバルに活躍できる人材育成とすることを目的とします。ディベートの日頃の練習成果を世界の舞台で試すだけでなく、ディベートという手法を通して効果的な国際交流を図るプログラムであります。また、スケジュールも国際会議、国際学会に似たものとし、高校生にとって、将来的にこのような世界の舞台に参加するイメージや各々の目標を持ってもらえれば幸甚です。なお、本大会では、文部科学省助成調査研究の結果を踏まえ、通常の授業でできる即興型英語ディベートのフォーマットを用います。そうすることにより、クラブの生徒に加え、一般の生徒も参加しやすい形態となっています。

論題（論題は、毎回ディベート開始 15 分前にはじめて発表されます）

予選 1 : Cosmetic surgery should be banned.

美容整形は禁止するべきだ。

予選 2 : We should build expensive disaster prevention facilities to prepare for a massive once-in-a-thousand-years disaster even if we end up destroying the environment in the process.

環境が損なわれても 1000 年に 1 度の災害に備えて巨額の防災施設を建設するべきだ。

予選 3 : President Trump brings more benefits than harm to the world.

トランプ大統領は全世界に害よりも利益をもたらす。

準決勝 : Euthanasia should be legalized.

安楽死は合法化されるべきだ。

決勝 (ノンネイティブ) : Countries around the world should actively promote immigration policies.

世界は移民政策を推進するべきである。

(ネイティブ) : Artificial intelligence is our enemy.

人工知能は人類の敵である。



村上憲郎氏

キーノートスピーチ講師

- 前 Google 日本法人名誉会長 元 Google 米国本社副社長 兼 Google 日本法人代表取締役社長 村上 憲郎 氏
- 大阪市立大学大学院工学研究科 都市系専攻・河海工学分野 講師 中條 壮大 氏

1日目（開会式、Mix Debate、カルチャーナイト）

海外7ヶ国から10チーム、日本からは6校が参加しました。子どもゆめ基金の助成で、初日のみの参加者もいました。第2回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会がいよいよ始まり、開会式では代表理事の中川からの挨拶と各国のチーム紹介がありました。



1日目は Mix Debate です。各国からランダムに選ばれたグループ内で、初めて会う様々なバックグラウンドを持つ人々と、ディベートを通して繋がっていきます。論題は「Homework should be banned. 宿題は禁止するべきだ。」と「It is better to confess one's love to someone by sending a text message than by telling it in person. 告白するときは、面と向かってよりも、携帯メールの方が良い。」の2つでした。普段ディベートを行う仲間から離れ、純粋にその場で意見を交換しながらスピーチを作り上げていく行為は、生徒たちにとってとても刺激的だったようです。

モロッコの生徒の1人はこう語りました。「大会の中でも、印象深い行事はミックスディベートでした。皆と知り合うことができ、それぞれのバックグラウンドを知ることができたから。」アンケート結果によると、ミックスディベートは半数以上の生徒にとって、最も意義深いイベントだったようです。



カルチャーナイト（文化紹介交流）では、各々が各国の伝統衣装を身にまといました。また、文化パフォーマンスが行われ、日本からは合気道、ニュージーランドからはハカが披露されました。



2日目（予選、キーノートスピーチ①、レクリエーション、バンケット）

2日目、いよいよ予選が始まりました。Mix Debate とはまた違った空気感の中、各国チームに分かれて真剣な議論が繰り広げられます。予選は、ネイティブ・ノンネイティブ混合での対戦です。



予選最後の論題発表の前に、中條氏によるキーノートスピーチがありました。この講演内容は前の論題に関連する事後学習となりました。防災の重要性が述べられ、イタリアの生徒からこのような感想がありました。「キーノートスピーチは大変興味深かった、特に巨大災害を防ぐために費用をかけて建物を築くことについてのキーノートスピーチ。」



予選後はレクリエーションの時間です。まず、各国の文化プレゼンテーションを行いました。各国の文化や観光名所、母国語での挨拶や在籍校が紹介され、またお菓子やお土産を振舞いながら、生徒たちは楽しそうに、そして堂々と発表を行いました。



次に、社交ダンスの講座が開かれました。最初は恥ずかしがりながらの様子でしたが、時間と共に段々と慣れてきたようで、英語やディベートで交流するのとはまた違った楽しさを味わったようです。



レクリエーションの後は、ブレイクアナウンスメント（予選の結果発表）です。明日の本選への出場チームが発表されました。（予選結果は下記の通りです。）

その後、バンケットでは、すっかり打ち解けた生徒たちがフリートークを楽しみました。そして文化紹介の続きとして、モロッコの音楽や空手の型などが披露されました。



予選結果

〈ネイティブ部門〉

- 1位 タイ
- 2位 イタリア2
- 3位 ニュージーランド1
- 4位 韓国2



〈ノンネイティブ部門〉

- 1位 インドネシア
- 2位 モロッコ
- 3位 イタリア1
- 4位 さいたま市立浦和



3日目（準決勝、決勝、キーノートスピーチ②、閉会式）

ネイティブ部門、ノンネイティブ部門の準決勝が同時進行でなされました。



小休憩の後、準決勝を勝ち抜いたチームのノンネイティブの決勝（インドネシア 対 イタリア1）が開かれました。舞台の上に用意されたテーブルにつき、堂々としたスピーチが行われました。



ネイティブの決勝の前に、待ちに待ったキーノートスピーカー村上憲郎氏（前 Google 日本法人名誉会長 元 Google 米国本社副社長 兼 Google 日本法人代表取締役社長）の登壇となり「AI は人類の敵か味方か？」についての知見を届けてくださいました。「AI」に繋げて、映画「ターミネーター」のワンシーン、「I will be back.」のセリフと共に満場の拍手で、村上氏のスピーチが終えられました。



キーノートスピーチの後はいよいよネイティブの決勝（タイ 対 ニュージーランド1）です。ジャッジは各国の代表の先生たちに加え、特別審査員としてキーノートスピーカーの村上氏、フィンランド大使夫人を迎えての審査となりました。心地よい緊張感の中、3日間ディベートを共にし、勝ち上がってきたチームのスピーチを生徒たちは真剣な眼差しで見つめていました。そして優勝者は… タイ（ネイティブ部門）とインドネシア（ノンネイティブ部門）でした。



閉会式では中川代表理事の大会を総括してのスピーチの後、各チームの代表が、大会に参加した喜びの感想を発表。感想では、日本の高校生の1人が、いろんな国のチームと切磋琢磨できた喜びと村上氏の貴重なキーノートスピーチを拝聴できた嬉しさを語りました。その生徒が村上氏キーノートスピーチの「I will be back.」を引用して、次回の世界大会参加を宣言すると、同じ志の参加者から大きな拍手が沸き起こりました。



会場となったホテル日航関西空港も、世界交流大会にふさわしい素晴らしい環境を提供してくださり、関西エアポート株式会社から世界大会参加の皆さんへの記念品（文具）も贈呈くださるなど、嬉しいサプライズもあり盛況のうちに世界交流大会は幕を閉じました。



各国のジャッジの皆さん、
ご協力有難うございました。

大会に参加された世界の高校生、引率の先生方、キーノートスピーカーの皆様、この世界交流大会を助成、後援、応援くださったすべての皆様に心より感謝申し上げます。

第2回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会結果

チーム賞

〈ネイティブ部門〉

優勝： タイ王国

準優勝： ニュージーランド 1

準決勝出場チーム： 韓国 2、イタリア 2.

〈ノンネイティブ部門〉

優勝： インドネシア

準優勝： イタリア 1

準決勝出場チーム： さいたま市立浦和高等学校、モロッコ.

個人賞

ベストディベーター賞

第1位 Linya Thng (タイ王国 Anglo Singapore International School)

第2位 Yona Schuh (日本 長野県松本県ヶ丘高等学校)

第2位 Will Scully (ニュージーランド 1 Southland Boys' High School)

第4位 Ali Nadifi (モロッコ Moroccan National Debate Team)

第5位 Giulia Andreoli (イタリア 2 - WeDebate Red)

第5位 Alice Mazzanti (イタリア 1 - WeDebate Blue)

POI 賞

Will Scully (ニュージーランド 1 Southland Boys' High School)

Ali Nadifi (モロッコ Moroccan National Debate Team)

Auni Siukosaari (フィンランド - Team Finland)

Tomoki Higuchi (日本 さいたま市立浦和高等学校)

Salam Hamid Okamoto (日本 大阪教育大学附属高等学校平野校舎)

文化賞

フィンランドチーム

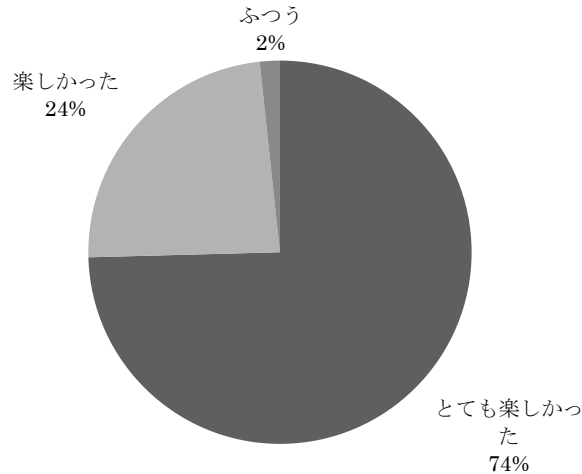
モロッコチーム

長野県松本県ヶ丘高等学校チーム (日本紹介代表)

ニュージーランド(1&2) チーム

第2回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会 アンケート結果と感想

PDA世界交流大会は楽しかったですか？



アンケート結果

世界交流大会の感想 (抜粋)

- 「大会のおかげで、英語学習へのモチベーションが上がりました。スキルが足りないけれど、これからもっと英語を学びたいです。」 (日本)
- 「とても良い機会でした、そして決して忘れ得ない体験でした。これからもスポンサーがこの大会を支えてくれることを願っています。なぜなら沢山のことを学ばせてくれた素晴らしい経験だったから。」 (イタリア)
- 「昨年よりアットホームでディベート中心に大会が進められていたので、とてもよかったですと思います。」 (日本)
- 「ミックスディベートはお互いを理解するチャンスでした。そして、宿泊し、ディベートの会場でもあったホテルはとても素晴らしかったです。教員の方々とスタッフの皆さんはとても親切でしたし、とても良い印象が残りました。」 (韓国)
- 「この大会に参加することで沢山新たな友達とめぐり合えてとてもうれしいです。新たな目標ができ、これから英語の能力の向上を目指してベストを尽くします。すべてに有難う。」 (日本)
- 「ジャッジを含めすべての方々がとても親切で親しみやすかったです。ディベートの後のジャッジからのフィードバックがとても参考になりました。」 (ニュージーランド)

- 「ディベートのレベルの高さはもちろんのこと、スタッフの方々の運営、3日間のスケジューリングなど全て大変良かったです。総合的かつ学術的な学びの機会である上に、国際交流、異文化理解までできる素晴らしい大会です。」（日本）
- 「他の生徒と知り合い、新しい友達ができて、スキルも得られて嬉しかったです。ホテル[ホテル日航関西空港]が相応しい会場でしたし食事がいつもよかったです。アクティビティ(ダンス)はとても楽しかったです！」（フィンランド）
- 「ほんとうに貴重な体験でした。去年の冬から参加しはじめたのですが、今はもう高2で次は参加することができません。将来、『高校時代に何を頑張っていましたか』と聞かれたら絶対に『即興型ディベートだった』と答えます！」（日本）
- 「このイベントを3日間以上にわたる開催にしてほしいです。」（インドネシア）

世界交流大会に参加して最もよかった点（役に立った点）に関しては：

- 「正直に言うと、国際的な面でした。論題に関してそれぞれの人が違った視点をもっていて、より深い議論ができました。」（モロッコ）
- 「アイデアや色んな視点を共有できたことが最も良かったです。ダンスと作法を学ぶことも楽しかったです。」（韓国）
- 「この新しいフォーマット[PDAの]で準備時間が15分しかない中、ディベートをすることで沢山の学びがありました。英語能力も大変上達し、他国の英語のノンネイティブとのコミュニケーション能力も、より向上しました。」（イタリア）
- 「特に村上氏のスピーチが感動的でした。こんなすごい方のスピーチは普段なかなか聞けないからです。」（日本）
- 「A. I. に関する[村上氏の]キーノースピーチがとても興味深く話に引き込まれました。」（タイ）



大会終了後の集合写真